

SaaSという情報資産を ISMSでどう管理するか



近年、利便性や業務効率の向上を目的にSaaSを導入する企業が増えています。SaaSは社内LANに依存せず、インターネット環境さえあれば利用できるため、リモートワークやBYODなど、多様な働き方を支えています。

一方で、SaaSの管理負担やセキュリティリスクが増大し、サイバー攻撃の増加とともに、企業が遵守すべきコンプライアンス要件も年々厳しくなっています。

情報セキュリティ管理の国際基準であるISMSは、こうした課題に対応するための有効な手段ですが、要件の把握や文書作成、運用管理には手間がかかります。

本ホワイトペーパーでは、ISMSの概要や、ISMS観点でのSaaS管理方法を解説します。

ISMSとSMP

ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）とは
情報の機密性・完全性・可用性を維持し、絶えず改善を行うための仕組みのことです

社内の情報を守るためには、社員一人ひとりが心がける
だけでは足りません。
また、一部の専門家だけが理解している状態でも意味が
ありません。
組織として情報を適切に管理できる体制を構築する必要
があり、そのための仕組みがISMSです。



情報セキュリティを徹底し、
組織がもつ情報の外部流出を防ぐとともに、利用しやすい状態で情報を保護することが重要です

▽ ISMSでは、情報セキュリティの要素として以下の3つを定義

1

機密性

情報資産を利用してはいけない
人が利用できない状態

2

完全性

情報資産が改ざんや
削除をされない状態

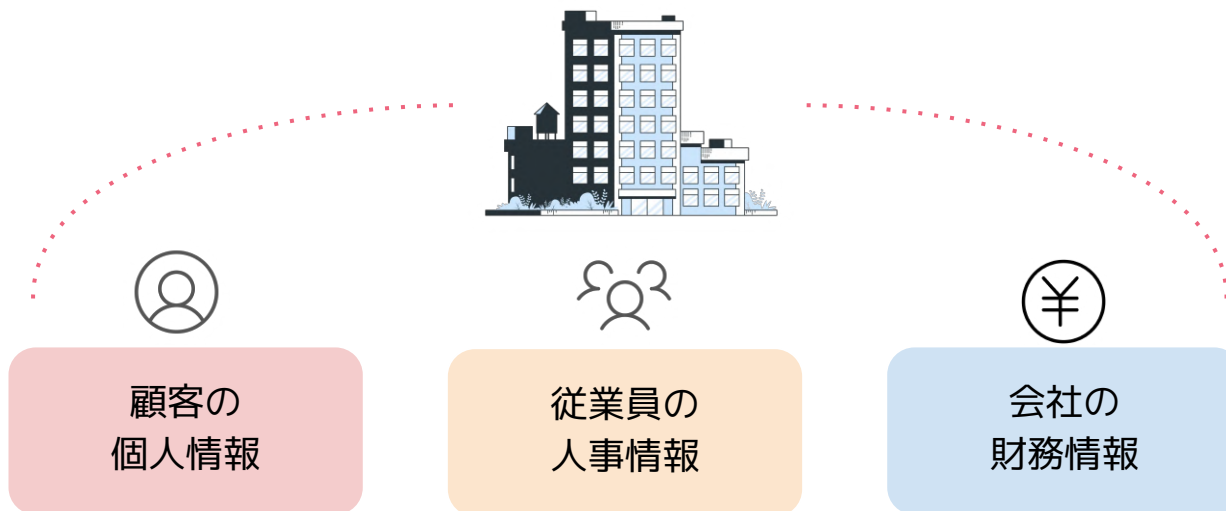
3

可用性

情報資産を利用すべき人が
速やかに利用できる状態

機密性と完全性は、第三者による不正利用や、削除・改ざんを防ぐための重要なセキュリティ要素です。
しかし、機密性と完全性を求めるあまりセキュリティが強固になり、利用者が必要なときに必要な情報にアクセスできない状態に陥るのは問題です。
そこで重要な観点が可用性です。ISMSでは上記3つの要素をバランスよく維持することが求められます。

企業や組織が保有する
「顧客の個人情報」「従業員の人事情報」「会社の財務情報」のことを“情報資産”といいます



情報資産が悪意のある第三者に狙われると、個人情報の流出など深刻なリスクを招く可能性があります。
これら資産価値のある情報は適切な情報セキュリティによって保護することが不可欠です。

情報資産には情報システムやソフトウェアも含まれ、ISMSでは保護すべき対象とされています

企業/組織が保有する情報資産の例

- 生産計画、製品技術情報（製品の設計図面・仕様書・部品表・作業手順など）
- 経営や事業計画、新製品情報、情報セキュリティなど戦略情報、企業間契約書類など
- 企業/組織の財務情報
- 顧客情報（顧客名や住所、電話番号、クレジットカード情報、注文履歴、仕入先・販売先など）
- 人事情報（従業員個人の携帯番号やメールアドレス、住所、採用時の応募情報、給与・昇給・勤怠情報、マイナンバーなど）
- 設備機械や施設、物理的資産（社用車など）
- **情報システム、ソフトウェア (SaaS)**、社内ネットワーク（サーバー/パソコン、通信機器等）、DB、IT技術ノウハウなど
- 無形資産（製品ブランドや企業イメージなど）

保有する情報資産のうち、対応が必要となる可能性のあるものを洗い出す



洗い出した情報資産の、保管方法、利用場所、利用者、管理状況を確認する



情報資産管理台帳を作成して適切に管理する

抽出された情報資産は
リスクアセスメント（リスク分析・評価）
の対象となり、**機密性・完全性・可用性の
観点**から対策の必要性を検討する

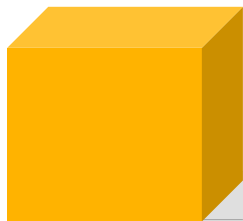
情報資産管理台帳へ利用SaaSのアカウント、管理者も記載します

情報資産管理台帳の項目例

- ① 業務分類 : 人事・経理・営業・調達・共通など
- ② 情報資産名 : **利用SaaS名**、給与システムデータ、請求書控え、メールデータ、社員名簿、受注契約書など
- ③ 利用範囲 : 部署名、処理担当名など
- ④ 管理部署／管理責任者 : **部署名および管理責任者**
- ⑤ 媒体の種類 : 書類・電子データなど
- ⑥ 保存先 : 社内サーバー、外部記憶媒体、モバイル機器、クライアントPCなど
- ⑦ 個人情報の有無 : 有無
- ⑧ 評価値（機密性／完全性／可用性）
- ⑨ 保存期間 : 文章保管規定など企業・組織の社内規程参照
- ⑩ 登録日（更新日）

情報資産管理台帳作成において、
シャドーITやSaaSの利用状況を可視化し、素早く情報を反映できるかがポイントとなります

利用SaaS



情シスが把握(承認)しているSaaS

- **情シスが主幹**となり、従業員に配布しているSaaS
- 部門利用の場合、ワークフローなどで**情シスの承認を得て利用**しているSaaS

情シスが把握していないところで現場が利用しているSaaS

- 情シスの承認を得ずに、現場判断で利用しているSaaS
- 外部企業の環境下で、招待を受けて利用しているSaaS
- トライアルなど、無課金で利用しているSaaS

SMP (SaaS Management Platform) とは
企業が利用するSaaSを一元管理および効率的な運用を可能にするソフトウェアのことです

▽ ITアドバイザー企業のガートナー社は、SMPには以下3つの主要な機能があると述べている

1

SaaSの検出

SaaSの情報を追跡

▽以下のソースを使用

- ・ SaaS API
- ・ ネットワーク機器
- ・ ブラウザ拡張機能

また、SaaSを利用するユーザーの
アクティビティに関する情報も集計

2

SaaSの管理

SaaSの管理業務を一元化

▽以下のITタスクがシンプルに

- ・ アカウント発行
- ・ ユーザーの入退職時の処理
- ・ ライセンス管理
- ・ 部署のグルーピング

3

セキュリティ

SaaSのコントロールセンター

▽以下のセキュリティ設定を一元化

- ・ アカウントに付与された権限情報
- ・ データの保護
- ・ アクセスのコントロール

SMPが必要とされる理由

SaaS管理が徹底できていない

- ✓ 事業部や部署で利用しているSaaSについては、そもそも管理が徹底できていない
- ✓ IPOやISMS構築のために利用SaaSの継続的な管理が必要だができていない
- ✓ Excelで管理しているが棚卸しの度に人的コストが都度発生している

セキュリティの懸念

- ✓ 事業部や部署管理でのSaaSについて、退職者アカウントが削除されず、残り続けている
- ✓ 退職者アカウントからの情報漏洩を発生させたくない
- ✓ シャドーITが検知できないためセキュリティ情報漏洩のリスクがある

IdP/iDaaSのみで管理が難しい

- ✓ 利用中のSaaSがSAMLに対応しておらず、個別で管理が必要になっている
- ✓ 利用中のSaaSはSAMLに対応しているが、コストが高くなるプランのため利用できていない

CASBのみで管理が難しい

- ✓ 社内で利用しているSaaSのアカウント棚卸しには向いていない
- ✓ そもそも大きな費用投資が難しい

マネーフォワード Adminaで IT資産を一元管理

従業員が利用するSaaS/デバイスを一元管理するサービス



管理業務の効率化/セキュリティ強化/コスト削減を実現



部門ごとのSaaS利用を促進し、企業成長のスピードを維持しながら
情シス部門による全体像の把握・セキュリティ対策・コスト最適化を実現

自部門のSaaSのみ把握・管理



それぞれが管理しつつも、全体像を把握



連携できるSaaSが多いからこそ、効率的かつ網羅的な管理が可能に



一部連携SaaS抜粋

< お客様の要望に対応してSaaSの連携開発も実行 >

Rentio



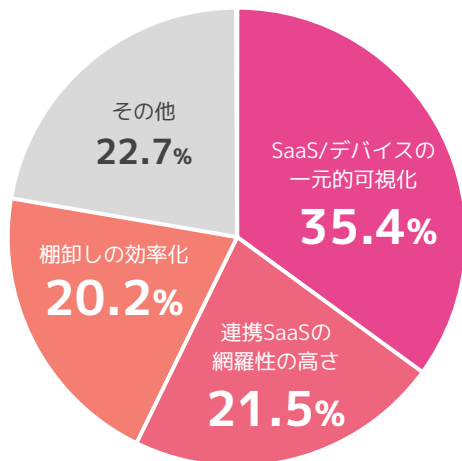
ご担当者様

弊社では以前からKandji という MDM製品を運用しています。これは主に欧米向けの製品なのですが、近頃複数の代理店で取り扱いがスタートしており、これから日本でも流行りそうな予感がしています。

▶ 1ヶ月で連携の実装！

おかげさまで多くのユーザー様にAdminaをご利用いただいております
Adminaをみなさまが選ばれた理由を一部ご紹介

課題解決に最も役に立った Adminaの特徴



お客様の声 一部ご紹介

情報システムの視点から見ると、Adminaのようなツールの導入が、アカウント管理の効率化や上場企業に求められるIT統制に対応する手段となります。また、費用対効果の透明性向上も期待できます。Adminaを利用することで、企業の運用がより効率的になり、管理面での向上が見込まれます。

Adminaは、一言でいうと本当に使いやすいです！一元的な管理と退職アカウント、公開ファイルの管理はリスクマネジメントに直結します。コストと製品価値を考慮すると、Adminaは圧倒的な価値を提供します。また、今後のポートフォリオ拡充にも対応できる製品です。

アワード バッジ



SaaS管理で10期連続でLeader取得



Good Service 受賞



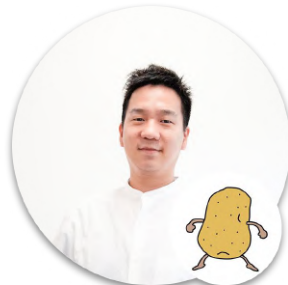
会社名	マネーフォワード i 株式会社
代表	今井 義人
創立年月	2021年2月
所在地	東京都港区芝浦3-1-21 msb Tamachi 田町ステーションタワーS 21F
株主	株式会社マネーフォワード(100%)
事業内容	情シス向けのSaaS/デバイス管理サービス マネーフォワードAdminaの開発・提供





CEO
今井 義人

2009年: Apple Japan
2012年: ミール株式会社(プロダクトマネージャー)
2015年: 株式会社マネーフォワード
マネーフォワードクラウド経費 本部長就任
2021年: マネーフォワード i の代表取締役就任



取締役/CPO
村上 勝俊

新卒からインフラ開発運用保守、PMを担当
社内開発プラットフォームの運用整備やクラウド導入
支援、クラウド利用ポリシーの整備を実施
2019年: 関西開発拠点長に就任し京都へ移住
2020年: 本事業を企画立案
2021年: 社内起業し、マネーフォワード i を創業



取締役
中出 匠哉

2001年: ジュピターショップチャンネル
注文管理・CRMシステムの開発・保守・運用を統括
2007年: シンプレクス株式会社
証券会社向け株式トレーディングシステムの開発・保
守・運用に注力。FXディーリングシステムのアーキテ
クト兼プロダクトマネージャーとして開発を統括
2015年: 株式会社マネーフォワード
Financialシステムの開発に従事。
2016年: CTOに就任

お問い合わせ



サービス
規約



サービス
サイト



コミュニティ
うちの情シス



bizdev@i.moneyforward.com